

平成17年5月23日  
社団法人日本物流団体連合会

## 第6回「物流環境大賞」の受賞者を決定

当連合会は、平成17年5月18日、物流環境大賞選考委員会(委員長：栗林貞一 日本物流団体連合会会長)を開催し、第6回「物流環境大賞」の受賞者を別紙のとおり決定いたしました。

なお、表彰式は平成17年6月21日(火)、15:30～17:00、キャピトル東急ホテルにおいて開催される第14回通常総会の席上において行なわれます。

以上

参考資料 物流環境大賞について

担当 萩島 電話(03)3593-0139

## 第6回表彰受賞者の概要

### 1. 物流環境大賞

- (被表彰者) 商船三井フェリー株式会社  
日本通運株式会社(共同申請)
- (功績事項) 「東京 - 九州・瀬戸内航路における画期的低燃費の高速RORO船」によるモーダルシフト

東京 - 博多間の定期航路で、商船三井フェリー(株)と日本通運(株)は同航路でのサービス向上とモーダルシフトの推進を図るために船舶の大型化・高速化による共同運航を行うこととし、各社それぞれ2隻(合計4隻)同型のRORO船を建造した。新船建造に当たり、大型化による貨物積載能力の向上・高速化と省エネによるCO<sub>2</sub>排出量削減等環境負荷の低減、という相反する目標を、高いレベルで実現したことが高い評価を得た。

### 2. 物流環境保全活動賞

- (被表彰者) 株式会社オー・エル・エス
- (功績事項) 潤滑油物流における共同保管・共同配送による効率向上と環境保全への貢献

東北・九州地域で32ヶ所あった石油元売の潤滑油拠点を共同基地で集約運営しトラック輸送と保管・荷役の効率向上を図るため、高速アクセスがよく自動倉庫を備えた福岡県甘木市の物流センター等3基地を開設した。配送の一元受託(九州全域潤滑油パッケージ品出荷量の約84%)と専用システム導入による配車の最適化により、CO<sub>2</sub>排出量を年間747トン削減した。

### 3 . 物流環境啓蒙賞

- (被表彰者) 財団法人中部トラック総合研修センター  
(功績事項) 「省エネ走行研修」 < 運転テクニック編 >  
< 社内制度導入編 > の実施

平成9年度より、「乗務員班長指導力強化研修および添乗指導者養成研修」のひとつとして、省エネ走行実技試験を取り入れ、平成10年度からは「省エネ走行研修」(運転テクニック編)として独立した一日研修も開始した。研修開始以来8年間において、研修実施回数425回、受講者数9205名、延べ参加企業数1672社に達した。

### 4 . 物流環境負荷軽減技術開発賞

- (被表彰者) 佐川急便株式会社、  
日本貨物鉄道株式会社 (共同申請)  
(功績事項) スーパーレールカーゴ営業運転による  
環境負荷の軽減

従来の貨物列車より軽量化した最高速度130km/Hの性能を有する世界で初めての電車型特急コンテナ列車の開発と営業運転の実施。日本貨物鉄道(株)は車両の開発と性能試験、耐久試験、及び訓練運転を行い、貨物駅構内の鉄道施設整備を行った。佐川急便(株)は走行試験用に31F鉄道輸送用コンテナを60個整備するとともに、集配訓練のためトラック60台を整備。集約拠点付近に立地し翌日午前配達が可能となる店所、便を選定し56個/日を鉄道に転換し、平成16年3月より営業運転を開始した。年間のCO2削減量は14,146トンに達した。

5 . 物流環境特別賞

該当なし

## 物流環境大賞について

物流環境大賞は、社団法人日本物流団体連合会が平成12年度より制定致したものであります。

その趣旨は、近年、物流分野においても環境問題への対応が益々重要となっている現状に鑑みまして、物流部門において環境保全活動や環境啓蒙活動等の面で優れた功績を残された団体、企業又は個人を表彰する制度を設け、もって環境施策の一層の推進を図ることと致したいというものであります。

毎年、物流環境大賞選考委員会（委員長 栗林貞一 日本物流団体連合会会長）で、被表彰者を選考の上通常総会において表彰することと致しております。